

第37号 平成26年11月13日発行
編集局 JA山口中央会



集落営農法人だより

JAグループ山口と山口県集落営農法人連携協議会との意見交換会開催

10月31日（金）、山口市のセントコア山口で、「JAグループ山口と山口県集落営農法人連携協議会との意見交換会」を開催しました。本協議会の山本勉生会長、榎本正男副会長をはじめとする各地域協議会の代表役員10名と、JA山口中央会の山本伸雄会長、中村滋専務理事、JA山口信連の小野浩常務理事、JA山口厚生連の花本敏夫理事長、JA全農やまぐちの堀覚県本部長、金澤猛夫副本部長、JA共済連山口の鹿嶋陽介副本部長ら約40名が出席しました。

【あいさつ】



法人協 山本会長

米の直接支払交付金の30年産からの廃止に向けた減額、また米価下落による概算金の減少など、集落営農法人の置かれている状況は厳しさを増しているが、設立の進む多くの後発法人に対し後姿を見せるため、本協議会が結集軸となるべく、活動を行っている。

要望事項をもとに、将来の取り組みに向けて、有意義な意見交換を行いたい。

JAグループを取り巻く情勢も、同じく大きな転換期を迎えており、組織のあり方の見直しを含めた改革を求められている。

JAグループの目指すものは農業の振興による組合員所得の増大であり、山口県の農業の担い手である法人の方々と同じ思いである。本日の意見交換を通じ、思いを共有し合い、これから進めるJAの自己改革の糧としたい。



中央会 山本会長

意見交換会ではまず、本協議会の槇本副会長から、集落営農法人が持続可能な経営を実現するため、以下の重点支援事項について、JAグループ山口へ要望しました。

《重点要望事項》

1. 多様な人材の確保・育成について（人づくり）

現在、人材の確保については、集落営農法人の取り組みを紹介するDVD及び事例集の作成のほか、新規就農ガイダンスにおける就農希望者へのPR等、多様な活動により支援をいただいている。また、人材の育成においても、JA担い手育成プランナーによるサポートや各種研修会の開催等の支援をいただいている。については、これらの取り組みをはじめとする多様な人材の確保・育成に関する支援を引き続きお願いする。

2. 経営の安定に向けた複合化・多角化の推進について（モノづくり）

集落営農法人が持続的な経営体として活動していくためには、園芸品目の導入による複合化、加工等の多角化を進めることが重要。また、これらの取り組みは、雇用の確保に向けた周年労働の確立、女性や高齢者等多様な労働力の活用による地域の活性化に欠かせない要素でもある。については、複合化・多角化の更なる充実に向けて、JAグループ山口による総合的な支援をお願いする。

3. 新たなマッチング体制の構築による法人間連携の促進について（地域のネットワーク化）

法人間連携は、集落営農法人の経営を効率化するための一つの手段であり、現在、県内の法人においても、機械の貸し借りや加工等において、法人間連携が広がっている。このような法人間連携の取り組みの輪を更に拡大・強化していくため、JAグループ山口による新たなマッチング体制の構築に係る支援をお願いする。

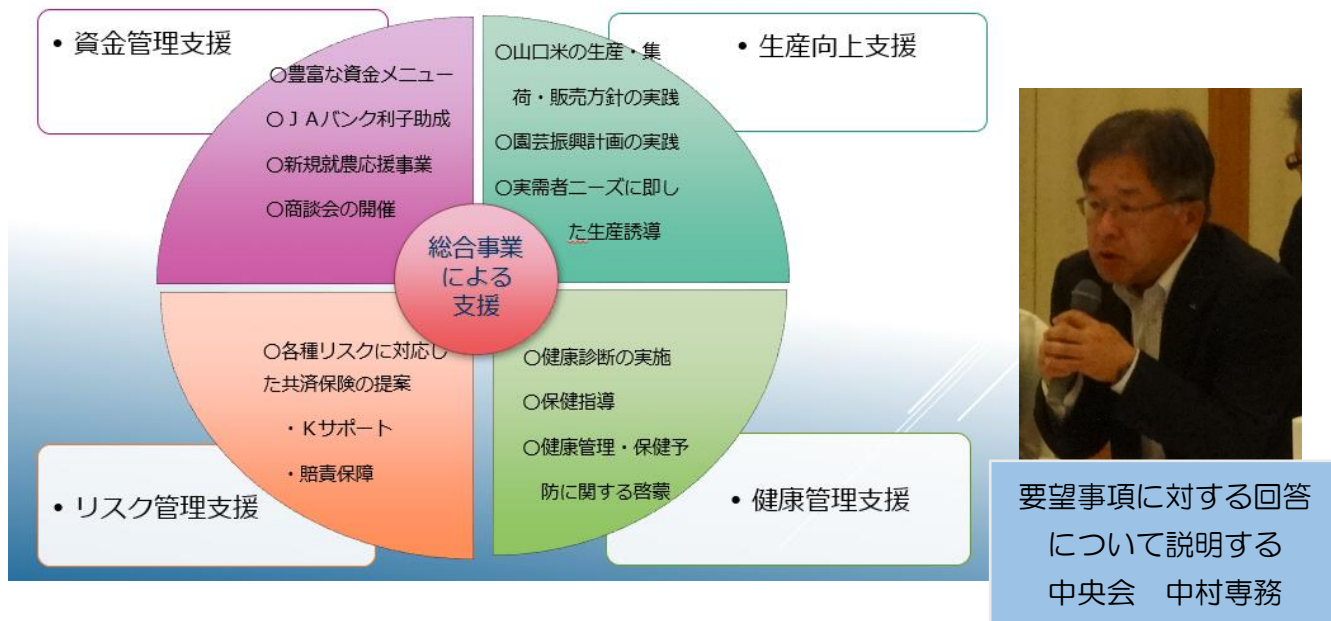
4. 山口県集落営農法人連携協議会への活動支援について（県域のネットワーク化）

本県における集落営農法人数は、現在 200 法人を超えており、今後も各地で設立が進むことが予想される。こうした中、本協議会は 169 法人が加入しており、法人同士の繋がりの強化、経営の安定・発展、後発組織への支援による県農業への貢献を目的に活動している。については、山口県集落営農法人連携協議会の活動強化に向けて更なる支援をお願いする。



要望事項について説明する
槇本副会長

続いてJAグループ山口から、JAグループの総合力を発揮し、JA・連合会が連携し提案型の支援をしていきたい、との回答がありました。



【意見交換】

法人経営の基本的な部分である「2. モノづくり」にテーマを中心に意見交換を行いました。

[意見交換で出された主な発言内容] 【意見交換 第一部（テーマ：モノづくり）】

- これからは「売れるものづくり」を考えていかなければならない。契約栽培・契約生産が基本と考えるが、スーパーに負けないような直売所の拠点をつくり、県産農産物売り込んでいくような取り組みも必要。
- 加工事業も行っているが、なかなか販売先がないのが現状。地産地消の推進のため、学校給食会にも働きかけてほしい。
- 機械購入費が経営を圧迫する。大型機械の貸出を強化してほしい。
- 山口県の米づくりについて、どのような見通しを立てているのか。主食用米に代わる加工用米・飼料用米について、契約数量を確保しつつ作付誘導してほしい。



さらに後半では、JAがすすめる自己改革について意見交換を行いました。



組合員向けに配布しているJA自己改革パンフレット

【意見交換で出された主な発言内容】【意見交換 第二部（テーマ：JA自己改革）】

- JA出資型法人の設立による耕作放棄地解消対策、記帳代行を含めた代行サービスなどぜひ検討してほしい。
- 現場目線の営農指導、出向く営農指導体制に期待している。情報提供を含め、農業者との連携を密にしてほしい。…等

意見交換は、予定時間を超過して活発に行われました。

【記念写真（意見交換終了後）】



後席（左から）：金澤副本部長（全農）、小野常務（信連）、仁多代表（「百姓錬磨の会」）、花本理事長（厚生連）、林役員代理、末永役員代理、堀県本部長（全農）、鹿嶋副本部長（共済連）、中嶋参事（中央会）
前席（左から）：中村役員、吉見役員、藤田役員、中村専務（中央会）、山本会長（中央会）、山本会長（法人協）、榎本副会長（法人協）、齋藤監事、秋本役員、久行役員

若手法人就業者サークル「百姓錬磨の会」活動報告

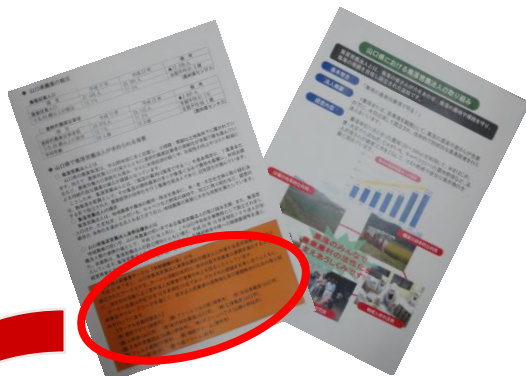
若手法人就業者サークル「百姓錬磨の会」（以下、「百姓錬磨の会」）は、11月3日（月）、農大祭へ出展し、県産食材を使ったお好み焼きのを販売しました。目標200食を上回る257食を売り上げました。

「百姓錬磨の会」では、昨年7月の発足後、若手法人就業者の連携の強化や資質の向上を目的に、研修会やグループワーク、イベントでのPR活動を行ってきました。

農大祭への出展にあたり、「百姓錬磨の会」では、8月の会合の中で、サークル員の所属する法人の農産物を使用したお好み焼きにしようとの話し合いが行われました。使用した農産物は米粉（有）名田島農産）、さつまいも（有）鹿野アグリ）、ブロッコリー（農）ファームつるの里）、かぼちゃ（農）七日町営農組合）です。米粉はお好み焼きの生地に混ぜ、野菜は彩りを活かしお好み焼きの付け合せとして添えました。

「百姓錬磨の会」オリジナルのお好み焼きに、お客さんとの会話もはずんでいました。

山口県立農業大学祭
平成27年農業祭



※配布したPR用チラシの一部

○ 若手法人就業者サークル「百姓錬磨の会」とは

平成25年7月に、山口県集落営農法人連携協議会加盟法人に所属する若手就業者が集まり設立されたサークルです。サークル活動の目的は、県内の若手就業者の連携を強化するとともに、自主的な活動により若手法人就業者の資質の向上を図ることとしています。

サークル会員は平成26年10月末現在20名であり、それぞれの課題を共有し合うとともに、研修会やグループワークを通じて、若手法人就業者の連携強化及び課題解決のための取組みを行っています。

【サークル会員所属法人】

（有）鹿野アグリ[周南市]、（農）ファームつるの里[周南市]、（有）名田島農産[山口市]、
（農）心和会[山口市]、（有）船方総合農場[山口市]、（株）仁保農産[山口市]、
（農）七日町営農組合[山陽小野田市]、（有）グリーンハウス[山陽小野田市]、
（農）フェルメ高熊[下関市]、（農）植柳ファーム[美祢市]、（農）木間の郷[萩市]、（農）小国ファーム[萩市]

サークル員 募集！

「百姓錬磨の会」では、サークル員を随時募集しております。本協議会事務局 [JA山口中央会 農業振興部（担当：梶山） [TEL:083-902-7503](tel:083-902-7503)] まで、お気軽にお問合わせください！お待ちしております(〇〇)/